



Vol.22~~2012.10

こんにちは。メルマガ 10月号をお届けします。

2012年も残りわずかとなり、長くなりつつある夜に秋をひしひしと感じられるようになってまいりましたが、日中はまだまだ汗ばみますね。周りにも衣替えを終えて長袖を着始める人も増えてきましたが、肌寒くなってくる夜のために長袖を一枚鞆に忍ばせておけば僕はまだまだ半袖で過ごせそうです。季節の変わり目、皆様も体調には十分お気を付けください。さて、今月号では二次錬成から夏合宿までの活動をお届けします。

== Index =====

- | | |
|-------|--------------|
| ■二次錬成 | ～晴天なり～ |
| ■夏祭り | ～小遣い稼ぎになった?～ |
| ■三次錬成 | ～きりのなかにいる～ |
| ■夏合宿 | ～神々の世界～ |

=====

2012/6/ 二次錬成

～晴天なり～

今年の二次錬成は例年通り比良山系で行いました。山行中雨が降らなかったのも、北比良峠から琵琶湖を見渡せ、また蓬萊山からの景色も楽しむことができ、昨年より良い合宿になったようです。アクシデントに見舞われ、かなりしんどい行程でせえええと言いつつも歩ききった一回生は、また一段と成長したのではないのでしょうか。

(文責：堀)

先輩から言われていた通り 2次錬成はかなり暑くしんどかったです。ですが、雨が降らず、かなり天候に恵まれた山行だったようです。初日、2日目ともアクシデントがあったり、かなりきつい登りがあったりと、しんどい行程でしたが、北比良峠から琵琶湖の眺めは最高でした。

(57期 理1 宮森 由布理)



去年は最初から雨に見舞われ、蓬莱山山頂ではガスで何も見えなかった二次予備でしたが、今回は天候に恵まれ、2日目の早朝の北比良峠で琵琶湖の方を見ると幻想的な景色が見られて感動しました。蓬莱山山頂でも視界は澄み渡っていて、ここはこんなにいいところだったということを初めて知りました。山行はきつかったですが、二次予備と言うよりも二次PWでした。

(56期 工2 出口 亮)

2012/7/11 夏祭り

～小遣い稼ぎになった?～

今年も箕面キャンパスで行われた夏祭りにワンダーフォーゲル部は参加しました。毎年1回生が自分たちで企画して準備し出店します。いちょう祭やまちかね祭期間は合宿期間ですので、この夏祭りが唯一参加できる学祭となります。今年是不手際で準備が遅れてしまい、一時は参加も危ぶまれたほどでしたが、1回生は連日部室に集まってたこ焼き作りの練習を行うなどして精力的に活動してくれました。その結果、当日は店の前に常に人だかりができるような状態となり見事完売！肝心の味もとても美味しかったです。後ろから作業姿を見ていたのですけれど、まさにたこ焼き職人そのものでした。聞いたところによるとかなりの儲けが出たようで…僕達のときは赤字だったのに（泣）また毎年夏祭りで着るTシャツを1回生が作るのですが、はりきりすぎてそのTシャツが熱い鉄板に触れて溶ける事件も発生。怪我が無くて良かった。

(文責：松尾)

やってきました夏祭り。今年はずっと天気予報等で雨が心配されていましたが、まさかの箕面キャンパスの上だけ晴れるという素晴らしい天候の中で開催されることになりました。そんな中、ワンゲルのたこ焼きが売れるわ、売れるわ。もはや一回生の腕前は職人レベルまで上がり、完売時の顔は、みんな鉢巻が似合う一人前の漢になっていました。というわけで、最高の祭りとなりました。追記：一枚のワンゲルTシャツが犠牲となった。

(57期 理1 丸山 大貴)

たこ焼きという夏祭り王道の出店でしたが、他にたこ焼き店がないという奇跡に恵まれ、奇跡的な黒字となりました。トッピングと会計を担当し、結局たこ焼きは焼きませんでした。汗を流しながらたこ焼きを焼く他の一回生を横で見ていると、ワンゲラーに似つかぬ繊細な手さばきでたこ焼きをひっくり返す姿が目に入り非常に感動しました。夏祭りを通して一回生の絆がより一層深まりました。



(57期 法1 桑原 真穂)

当日は準備段階で様々なトラブルがあり、十分とはいえませんでした。クラブとして団結できた夏祭りだったと思います。もう一度できるなら、しっかりと準備をして、もっと効率良く、本格的なタコ焼き屋に負けないくらいのクオリティを作りたいです。訪れるゲストに対して待ち時間を出来るだけ短くし、一品ずつの質が変わらない、ムラのない商品を提供できるようになりたいです。一日とはいえ、店を運営するからにはそれ位の意識を持って臨む必要があると思います。

(57期 文1 大塚 駿)

2012/8/11~15 三次錬成

～きりのなかにいる～

夏合宿へ向けての最後の錬成合宿である三次錬成は、今年は白山と奥秩父山塊の2か所で行いました。特に僕が行った奥秩父は近年では行ったことがない山域で、企画段階から過去の資料が一切無いので苦労しました。登る前は長い間企画が出されていなかったのも、あまりいい山ではないのかな、などという心配をしていましたが、神秘的な雰囲気を有する奥秩父の森林の中に立ってそれが如何に無駄で愚かな心配であったかが分かりました。雄大な山々の中で一際異様で別格な存在感を湛えていた甲武信ヶ岳、そこから長い稜線を経て森林限界を超え、岩場の山頂から360度の雲海を望ませてくれた金峰山。最高、以外の言葉を充てようがない気分になることができました。

白山へ行った Party は僕達奥秩父組より一日早く山行を開始したのですが、二日目の行程を終えた後霧による見通しの悪さのために一日避難小屋で停滞し、僕達と同じ日に下山しました。奥秩父二日目の山行中では、白山組は今頃下山して風呂にでも入っているのかなー、なんて会話をしていたのですが……情報が入ってこなかったのでまさか停滞しているとは露ほどにも思いませんでした。大変だったね。

(文責：松尾)

白山

3次練成では白山に登ってきました。実は白山に登るのは2回目だったのですが、やはり白山は非常に素晴らしい山でした。あいにく天候には恵まれなかったので見せてくれた白山の木々や花々は筆舌に尽くし難い美しさでした。また、同時期に登っていた神戸大学の山岳部の方と仲良くなり、自分の知らなかった興味深い知識を教えて頂いたのも深く印象に残っています。恋愛相談もして頂きました(笑)白山は何度登っても魅力的な景色を見せてくれる山だと思います。



(57期 経1 中澤 茂樹)



今回の三次練成は白山に行ってきました。生憎、天候の悪い日が多く、景色を楽しむことはなかなかできませんでした。三ノ峰、二ノ峰の連なり、最終日の景色は最高のものでした。また、初めて停滞日が発動して、ある意味貴重な体験ができたと思います。唯一心残りなのは、御前峰で展望が悪かった事です。いつか、機会があればリベンジしたいと思います。

(56期 経2 増井 慎一)

奥秩父（甲武信ヶ岳、金峰山）



三次練成では奥秩父の山々に登ってきました。初めての高山ということで非常に楽しみにしていましたが、2日目の途中まで時折雨の降る鬱蒼とした森の中を歩き続け、精神的にもきつくなっていました。しかし、国師ヶ岳に着いた瞬間、俄かに雲が晴れ、目の前に富士山が姿を現しました。その後も山頂では晴天に恵まれ、高山の雰囲気を存分に楽しむこ

とことができました。雨が降る某山に行った人たちに対する優越感とともに、partyのテンションも最高潮に達し、非常に楽しい合宿となりました。

(57期 基1 武藤 智太郎)

三次練成では自分で企画した奥秩父に行ってきました。企画の段階では過去の資料なども少なく苦労しましたが、やはり新しい場所に行ってみると楽しかったです。初日は比良を思い起こさせる樹林帯の中を歩き、あまり新鮮味がありませんでしたが、2日目以降は濡れた苔の広がる風景がとてもきれいで、もののけの森または星野道夫の世界にいるような気分でした。



奥秩父の魅力として間近に富士山を見ることができるというものがありますが、国師ヶ岳から無事見ることができ、満足できる合宿となりました。

(56期 文2 林 貴哉)

2012/8/26~9/3 夏合宿

～神々の世界～

今年の夏合宿は北アルプスと南アルプス、槍ヶ岳と北岳の頂を目指して出発しました。私は北アルプスに行って来ました。日程はどちらも1週間。去年は台風で途中下山したため体験したことがない長さで、出発前の期待は大きいものでしたが不安もかなりありました。しかし山に入ってみると、北アルプスの雄大かつ美麗で鮮烈な景色が不安を消し去ってくれました。山腹の方から見てみると、あそこまで行けるのだろうかというほど非常に高く感じる槍ヶ岳へ一步一步足を進め、ついにピークハントできる稜線にある槍ヶ岳山荘に着くと無心でその頂へと向かいました。山頂の景色は素晴らしいもので、雲海が広がりどこまでも遠くを見渡せる気がしました。これだけでも来てよかったと思ったのですが、極めつけは翌朝のご来光でした。信じられない美しさでした。空の端からだんだんと明るさを増しながら、光は山々の間に広がる雲海の上を大きくなって近づいて来るように見え、それと同時に、時々霞がかりながらも夜が明けていくあの光景は、神々しく神秘的でみんな忘れられないものになったのではないのでしょうか。また、槍ヶ岳山荘に泊まり、休養日は三俣山荘でゆっくりするなど初めての体験ができてとても楽しかったです。非常に長く思えた夏合宿もあっという間に最終日になって、山から降りることに一種悲しみを感じながら下山しました。天気もずっと良くて最高の合宿でした。

(文責：堀)

北アルプス (槍ヶ岳、鷲羽岳、水晶岳)

高くそびえる槍ヶ岳や雲海、満点の星空など、挙げるとキリがありませんがたくさんの絶景を、この夏合宿で堪能してまいりました。幸運にも雨はほとんど降らず、多くの日が晴天に恵まれました。だからこそ、多くの絶景に出会えました。錬成合宿が無ければ、きっとぼくは終始グロッキーに陥って、絶景を絶景として認識することすらできていなかったことだと思います。

この合宿で、ぼくは、喜びや恐怖など、多くの感情を経験し、それらも含めて多くのことを、山から教わった気がします。下界でまた色々なことを学び、経験し、そしてまた山に登ることがあれば、さらに多くのことを山は教えてくれる、そんな気がします。いずれにせよ、ぼくは山に感謝せずにはいられません。

(57期 法1 金田 宗和)



初めての夏合宿に行ってきました。これまでの練成合宿と違い、自然を満喫する余裕のある、とても楽しい合宿でした。当初、台風が近づいていて、心配もあったのですが、逸れてくれて、いい天気の中、山行ができました。2日目に登った槍ヶ岳は登れるかどうか不安になるほど急でしたが、なんとか山頂に登ることができました。

ほかにも雪渓を歩いたり、初の休養日を体験できたりと、夏合宿ならではの経験をす

ることができました。とても楽しい夏合宿になってとても良かったです。

(57期 理1 宮森 由布理)

0泊目の徳沢キャンプ場では「山と溪谷」の雑誌の催しが行われており、人気のライターさんによるトークショーを伺う事ができました。1回生らも読図講習を受けていたようで、各自有意義な0泊目を過ごす事ができたようです。

槍ヶ岳山荘へ登るルートでは遠くに富士山を望む事ができる程に天気良く、その日のうちに無事槍ヶ岳ピストンができました。下から見上げた槍ヶ岳の圧倒的な存在感は今まで登ったどの山も比べ物になりません。狭い頂上では自分達10人は早々に降りざるを得ませんでした。足元から覗き込んだ沢底の深さや道中の急な岩肌で十分に槍ヶ岳を感じられました。

槍ヶ岳～三俣へ向かう途中のダウン地では、偶然にも雷鳥のつがいに出会う事ができました。雷鳥の小さな鳴き声が聞こえる程近い距離で、他のメンバーに伝える時には声と興奮を抑えるのに必死でした。とても貴重な体験をしたのですが、その時に自分だけがカメラを用意できなかった事が残念でなりません。



休養日の後にまず登った鷲羽岳でしたが、

生憎のガスにより白山御前峰にも劣らぬ見事な景色を楽しむ事になりました。

鷲羽～水晶ではツアーのガイドをされている方と、水晶岳山頂では個人ビデオを撮影していた方と出会い、どちらも陽気な方でその日の山行の励みとなりました。

全行程を通して、本当に天候や運に恵まれた合宿であり、満足すると同時にその分台風による去年の赤石岳夏合宿を残念に思ってしまう。夏合宿はリーダーさん達の多くの努

力と共に天候面の運があつてこそという事が実感でき、また来年へのモチベーションが上がる素晴らしい夏合宿となりました。

(56期 工2 平井 皓基)

夏合宿は北アルプスだったのですが、ほとんど晴れてとても楽しいものでした。自分はワングルに入った当初から槍ヶ岳に登りたかったので、登頂したときは非常に感慨深いものがありました。行程は過酷でしたが、楽しい仲間と過ごした1週間はとても有意義でした。

(56期 法2 梅澤 啓)

南アルプス (塩見岳、間ノ岳、北岳)



目の前に広がっていたのは、まさに僕が憧れていた景色でした。遥か彼方まで連なる山々、咲き乱れる様々な高山植物、眼下に広がる雲海——これを見るためにワングルに入ったと言っても過言ではありません。危険箇所では恐怖を感じることもありましたが、高山の稜線歩きは爽快で、山頂に到達したときの達成感は今まで経験したことのないものでした。北岳山頂がガスっていたのは残念

でしたが、おおむね天候にも恵まれ、山行中は一度も雨に降られませんでした。高山の絶景を存分に楽しむことのでき、一生忘れることのできない合宿となりました。

(57期 基1 武藤 智太朗)

今回の合宿は、去年台風で行けなかった北岳に行けるということで、楽しみである反面、

1週間という長い山行であったので、不安もありました。1回生たちとのコミュニケーションや、自分の体調、天候などです。しかし幸いにも天候に恵まれ(北岳では曇っていましたが)、会話も弾み、パーティーの絆が深まったと思います。1回生の二人もようやく心を開いてくれたようで、これからのワングル生活も楽しくなりそうです。



(56期 理2 河相 圭亮)

メルマガ 10月号は如何でしたでしょうか。

さて、前号のアンケートでは「印象に残った山行」についてお聞きしました。やはり、夏合宿についての意見が多かったです。去年は台風の影響で日程が短縮され、夏山を満喫することはできませんでしたが、今年は天気にも恵まれて素晴らしい山行を行うことができました。僕は南アルプスへ初めて行ったのですが、途中塩見岳山頂で見た、上下の雲が光り輝く中遠方に見える富士の素晴らしさといったら。夢中で写真に収めました。今もその写真をパソコンのデスクトップの背景にして、毎日夏合宿を思い返しています。僕の初めての夏合宿は、印象に残ったというよりは「衝撃的だった」という表現の方が合っているような気がします。

ところで話は変わりますが、最近部室にある「霧」を良く読ませて頂いています。長い歴史の中で変容していく阪大ワングル文化を覗くのはとても楽しいです。その中には僕たち現役には見慣れない用語が多々噴出しますが、ここではそのような用語をいくつか挙げて整理してみようと思います。OBの皆様も普段使っていた用語が挙がっているのを見て阪大ワングルの変容を感じてもらえるのではないのでしょうか。

・沈殿

「停滞」のこと。登山用語としては結構メジャーでしょうか？シャレた言い方ですが、現役の中では使いませんね。輸入してみようかな。

・ファイヤー

そのままキャンプファイヤーのことだとは思いますが、我々がキャンプファイヤーをする機会はほとんどありません。無人島に行ってきたき火をするぐらいでしょうか。一般人のキャンプに対するイメージにキャンプファイヤーは付き物ですが（入部前は僕もそうでした）、やはり普段のサイト地でこれをするのは厳しいものがありますね。

・スタンツ

上記のファイヤー中などや合宿が終わって皆が集合したときなどに、それぞれのパーティで出される劇。この文化は完全に廃れてしまったようです。霧を見ていると、このスタンツに出すために合宿中必死で内容を考えていたという記述が散見されます。やりたくない。

・ミーティング

おそらく行程が終わった後に皆で集まって行う会議でしょうか。これは今は「反省会」と呼ばれています。錬成合宿で今日一日ダメだったことを言い合って、今後につなげていくために行われます。山小屋 W など暮雪山荘を使う時は皆でワイワイ騒いだりしますが、普段はあまり楽しくない会議です。重要ですけどね。

・ミーティングマスター

通称エムエム。これについては良く分かっていないのですけれども、上記ミーティングの盛り上げ役でしょうか。リーダーがやるという訳ではなかったみたいですね。何か面白いことをすることを強要されたようです。

・ピー缶

「ピーク缶」のことでしょうか？ピークでのダウン中に出される差し入れみたいなものと想像しています。この用語は使われませんが、ピークで先輩から出される差し入れは毎回楽しみです。普段の山行では「行動食」と言うお菓子をありったけビニール袋に詰め込んだものを持ち運んで、ダウンの度に取り出して食べます。

・ブッシュ

笹踏みのこと。これは阪大ワングル用語ではありませんが、現在の阪大ワングルではブッシュは行われていません。おそらく危険だからでしょうが、他の大学のワングルではブッシュを行っているという話を聞き、すこし羨ましく思ったりもします。山道が通れなくなっているような箇所が必要だったようですが、今はそのような可能性のある山道は避けるようにしています。

まだまだありますが、挙げだすとキリがありませんので、今回はこのぐらいにしておきます。「霧」が何故終わってしまったのか知りませんが、過去のリーダー達がどのように考え、部活を運営してきたかを知ることができて大いに役立ちました。入部してはや1年半。今月号でメルマガ委員の仕事を終えてリーダーになる訳ですが、メルマガ委員の仕事を通じて「霧」の存在を知ることができたのは大きな収穫でした。メルマガは後輩に託して、来年1年はリーダーとして思いっきりワングルにぶつかっていきたいです。次回は秋合宿等についてお伝えする予定です。ご期待ください。

アンケートページ：<http://www.ouvv54.org/enquete/enqform1210.html>

ギャラリーページ：<http://www.ouvv54.org/mailmagazine/gallery1210.html>

メルマガ委員：松尾 勇汰、堀 裕貴